

長野県文化財保護審議会への諮問について（案）

文化財・生涯学習課

下記の文化財を長野県宝に指定し、及び長野県宝の指定を解除したいので、文化財保護条例（昭和 50 年長野県条例第 44 号）第 4 条第 3 項及び第 5 条第 2 項の規定により、長野県文化財保護審議会に諮問するものとする。

記

1 長野県宝に指定する文化財

名 称	員 数	所 在 地	所有者の住所及び氏名 又は名称
むらまつ ほうきょういんとう 村松の宝篋印塔	2 基	小県郡青木村大字村松 おいち 字生地1972 番 11	小県郡青木村大字村松 おいち 字生地 村松区
そのはらけじゅうたく 園原家住宅	しゅおく 主屋 1 棟 ま や 馬屋 1 棟 ほんでん 本殿 1 棟	木曽郡南木曽町読書 よみかき 3456 番地	愛知県知多市日長台 360 番地 園原 大進

2 長野県宝の指定を解除する文化財

名 称	員 数	所 在 地	指 定 告 示
ひなたばやし いせき 日向林 B 遺跡 しゅつどひん 出土品	1 点	千曲市大字屋代 260 番地 6 (長野県立歴史館)	平成 19 年 1 月 11 日 長野県教育委員会告示第 1 号

諮 問 物 件 の 概 要

名称・員数	むらまつ ほうきょういんとう 村松の宝篋印塔 2基
所在地	小県郡青木村大字村松字生地 1972 番 11
所有者の住所及び名称	小県郡青木村大字村松生地 村松区
構造形式	<p><東塔> 関東形式、総高 131.9cm、鼠色・茶色二色の石を交互に用いる 基壇部分に銘文あり、相輪欠、隅飾一部を残し欠</p> <p><西塔> 関東形式、総高 127.2cm、鼠色・茶色二色の石を交互に用いる 無銘、相輪欠、隅飾一部を残し欠</p>
建築年代	<p><東塔> 貞治四年（1365 年）</p> <p><西塔> 構造・技法の特徴から東塔と同時期の造立と考えられる</p>
諮問理由	<p>小県郡青木村大字村松地区は、上田市から松本市に通じる国道 143 号線沿線にあり、旧東山道と推定される道筋と浦野川を望む立地条件である。当該宝篋印塔二基は、この地籍の傾斜地の中ほどに南面して並び建てられている。</p> <p>宝篋印塔は、宝篋印陀羅尼の経文を納めた塔で、鎌倉期以降は宗派を超えて造立されるようになった。滅罪や延命などの利益から、追善（死後に供養すること）・逆修（生前にあらかじめ供養をすませること）の供養塔、墓碑塔として造立された。</p> <p>東塔は、銘文から貞治四年（1365 年）造立されたことが明らかである。石材は、焼石の安山岩で鼠色と茶褐色の材を交互に用いている。塔身には、胎藏界大日如来の種字「ア」が彫り込まれている。基壇にある銘文は、寄進文を刻印したものである。</p> <p>西塔は、東塔とほぼ同様な構造と特徴をもち、塔身には金剛界大日如来の種字「バン」が刻まれている。</p> <p>両塔は、同一石工により同時代に造立されたものと推測され、一対のものとして金剛界・胎藏界の理智不二を具現したものと考えられる。</p> <p>当該宝篋印塔は、県内の石造宝篋印塔で在銘のものの中では四番目に古いものであり、関東式宝篋印塔の典型例の初期の数少ないものである。笠（屋蓋）と基礎と基壇部分がそれぞれ別石の二段方式の技法で造られ、しかも、鼠色と茶褐色の石材を交互に配置して仏塔としての荘厳性を意図的に高めた事例として注目される。</p> <p>基壇に刻まれた石刻の寄進状は、全国で 15 例、東日本ではわずか 3 例しかなく県内では唯一の事例であり、神仏との契約は変更できないという中世の人々の法意識を物語る貴重な歴史資料である。また、浦野庄内村松郷の浦野氏と海野庄彌津田中郷の彌津・海野・臼田氏ら滋野氏一門との交流を示す歴史資料として貴重である。</p>
指定基準	<p>第 1 長野県宝の指定基準</p> <p>（6）歴史資料</p> <p>ア 政治、経済、社会、文化等の各分野において、歴史上重要な事象に関する遺品のうち、学術上重要なもの</p>

（参考）青木村指定有形文化財（昭和 54 年 4 月 1 日）

諮 問 物 件 の 概 要

名称・員数	園原家住宅 <small>そのはらけじゅうたく</small> 主屋 <small>しゅおく</small> 1 棟 馬屋 <small>まや</small> 1 棟 本殿 <small>ほんでん</small> 1 棟
所在地	木曾郡南木曾町読書 <small>きそぐん なぎそまちよみかき</small> 3456 番地
所有者	愛知県知多市日長台 360 番地 園原 <small>そのはら</small> 大進 <small>おきむ</small>
年代	<主屋>江戸時代中期 <馬屋>江戸時代末期 <本殿>江戸時代中期
構造形式	<主屋>切妻造、ツシ 2 階建、鉄板葺、妻入、本棟造、間口 6 間半、奥行 8 間 <馬屋>間口 3 間、奥行 1 間半、切妻造、棧瓦葺 <本殿>一間社流造、こけら葺、覆屋（拝殿）付属
諮問理由	<p>園原家は、三留野宿東山神社の神官を先代まで務めた家で、諮問物件は三留野宿から妻籠宿へ向かう中山道沿いに位置する。街道に沿って高さ 2 m 以上の石垣が築かれ、町屋のように街道に接する出入口はなく、石段を上った正面に主屋、主屋手前西側に馬屋、山を背負う主屋東側に庭、その奥に神殿と物置を配している。</p> <p>主屋へ上る石段の傍らに「園原先生碑」（南木曾町指定文化財）がある。享保 3 年（1718 年）5 世の神職を継いだ旧富 <small>ふるとみ</small>（1776 年没）の記念碑として、天明元年（1781 年）に尾張・美濃・信濃三国の門人が建てたものである。旧富は、神学を極めるため、吉田兼敬（神祇管領長）に師事した。その後多くの書を著わし、門人を多数擁する学者となった。</p> <p>主屋は、間口を三分割して奥行き方向に居室を配した 3 列型の間取りで、中央に広い居室を設けている点は、本棟造りによくみられる間取りである。10 畳の座敷を 2 室連ねて、その奥に 5 畳のジョウダンの間を更に設けているのは、神官としての役割に必要となったものと思われる。また、板壁が多く閉鎖的であることなど、県内における江戸中期以前に建築された民家の特徴をもっている。ただし、柱や梁は当初材と二次材が用いられていることが仕上げから明らかで、後世に一度大規模に手が加わり、現状の形になったものと推定される。</p> <p>主屋の手前に接続する馬屋は、主屋とは別構造であり、床を掘り下げる形式は、南木曾町の古民家にみられる特徴である。現在の建物は、幕末の再建と推定されるが、規模や位置は、それ以前の規模・形式を踏襲して再建されたと考えられる。</p> <p>本殿は、建築年代を示す資料はないが、組物等の様式から、元禄期（1688～1703 年）頃の建築と考えられる。本殿の中には享保 10 年（1725 年）銘の鏡が安置されている。</p> <p>園原家住宅は、県内に残る数少ない江戸時代の神官の住宅で、主屋、神殿ともに建設年代が古く、馬屋を含め江戸時代の屋敷の姿を今に伝えるものとして貴重である。</p>
指定基準	第 1 長野県宝の指定基準 (7) 建造物 (ウ) 歴史上重要なもの (オ) 流派的又は地域的特色において顕著なもの

（参考）南木曾町指定有形文化財（平成 23 年 7 月 12 日）

諮 問 物 件 の 概 要

名称・員数	ひなたばやし いせきしゅつどひん 日向林 B 遺跡出土品 1 点
所在地	千曲市屋代字屋代 260-6（長野県立歴史館）
所有者	長野県
年代	旧石器時代
概況と特色	<p>日向林 B 遺跡は、後期旧石器時代の遺跡が密集する野尻湖遺跡群の一つである。約 3 万年前の石器集中ブロック 20 ケ所で構成された環状ブロック等が発見され、この時期を主体とする石器 9,001 点が出土した。</p> <p>この内、世界最古級の磨製石器とされる斧形石器が 60 点まとまって出土した点は、国内で最多出土例である。これに、この時期を代表する台形石器 59 点や、道具類を構成する各種石器の代表的なもの（貝殻状刃器ほか）、石器製作の過程を示す接合資料、砥石などの石器製作用具を加えた 202 点を、平成 19 年 1 月 11 日県宝に指定した。</p>
諮問理由	<p>平成 22 年 3 月、指定物件の内、貝殻状刃器 1 点の所在が不明であることが判明し、県立歴史館内の探索を継続的に進めてきたが、現在において、所在が確認できない。</p> <p>平成 23 年 6 月 27 日、この 1 点を除く 201 点が重要文化財の指定を受けたことにより、文化財保護条例第 5 条第 3 項により、県宝指定が解除となった。残存する県宝は、所在不明の貝殻状刃器 1 点である。</p> <p>貝殻状刃器は、旧石器時代（3 万年前）では一般的な器種であり、日向林 B 遺跡においても 1,176 点もの数が出土している。指定物件の貝殻状刃器 1 点のみでは、「縄文時代及びそれ以前の遺物で学術上重要なもの」（長野県宝等の指定等に関する基準）の要件を満たすことができない。</p> <p>上記の理由により、所在不明の貝殻状刃器 1 点の県宝指定を解除するものである。</p>
解除の要件	<p>県宝が県宝としての価値を失ったときその他特殊の事由があるときは、教育委員会は、その指定を解除することができる。</p> <p>（文化財保護条例第 5 条 1 項）</p>

むらまつ ほうきょういんとう

村松の宝篋印塔（小県郡青木村）



刻 銘（拓本）



位置図



そのはらけじゅうたく
園原家住宅（南木曾町）



主 屋

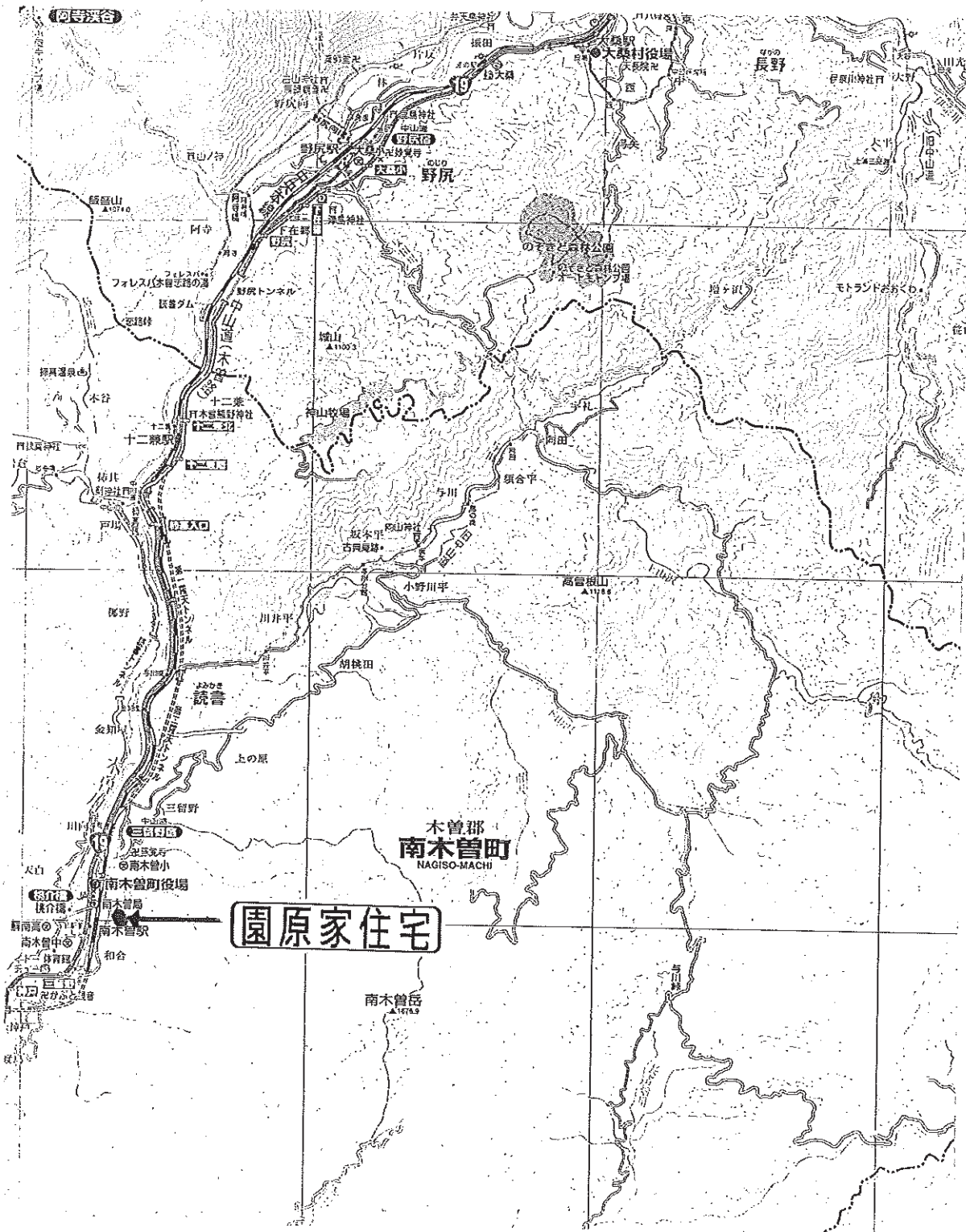


馬 屋



本 殿

位置図



ひなたばやし いせきしゅつどひん
日向林B遺跡出土品

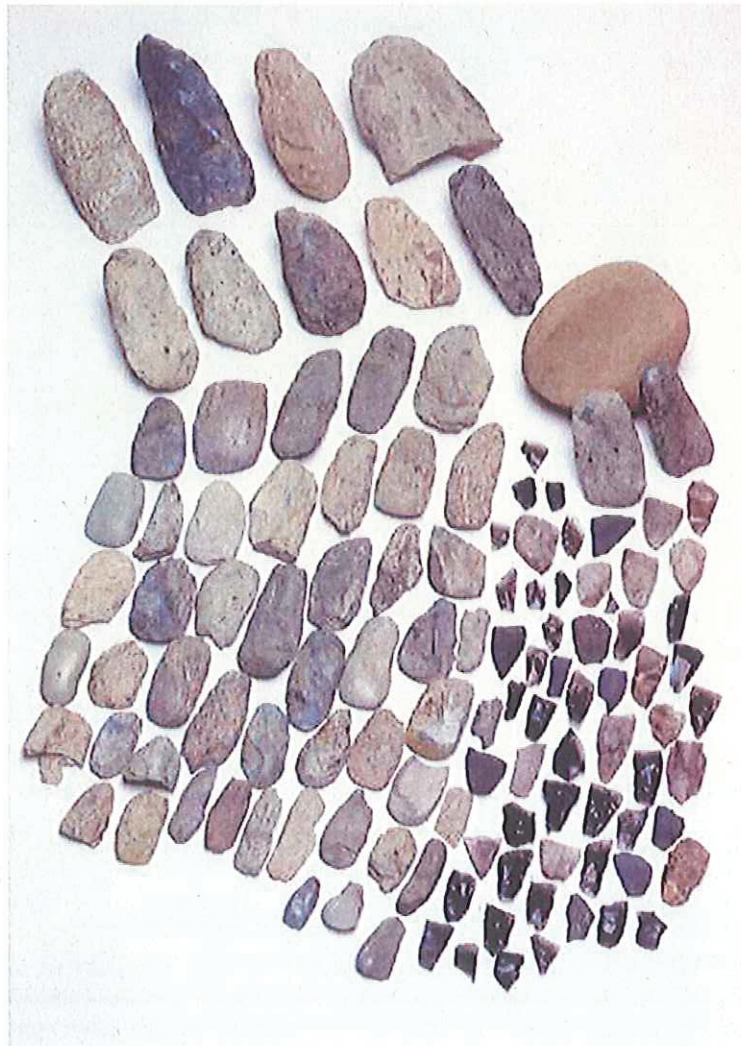
1点



左 (拡大写真)

- ・縦 12mm
- ・横 7mm
- ・重量 0.53 g

(参考) 国重要文化財 長野県日向林B遺跡出土品 (一部)



位置図

